

びBodleian Library, Oxfordに依頼して収集し、第2巻第2章についての刊本と写本との照合表を作成する。これと平行して『解釈原理の評釈』刊本の第2巻第2章部分のテキスト・データベースを作成する。このためにパーソナル・コンピューターを新たに設備品とする必要がある。作成したデータベースを利用して論題ごとの術語の用法の共通性と差異性に留意し、また引用された個々のヴェーダ文の出典と文脈を押さえつつ、『解釈原理の評釈』第2巻第2章の骨組みを呈示するための科段式の詳細な内容梗概を作成する。さらに文法学や法典などの他分野の規範論との関係を2年間の内で可能な限り解明する。現在絶版となっている図書を複写するため国内の他大学で資料収集と調査を行う。以上の作業を基にして、クマーリラが、第2巻第1章で扱った解釈学上の諸概念を、第2巻第2章でどのように応用しているかを解明する。それら諸概念のうちには、bhaavanaa (目的実現に向かう行為の一般形式)、apuurva (元来は各行為規定独自の行為理念、クマーリラにおいては行為により自我の内に蓄えられる潜勢力)、eka-vaakyataa (構文上・文脈上の統一性)、kalpanaa-laaghava (想定の援用を最小限にする解釈)等が含まれる。

A03 「情報処理」

A03 平安時代物語文の比較計量的研究

研究代表者 今西 裕一郎
九州大学文学部 教授

研究分担者 小西 貞則
九州大学大学院数理学研究科 教授

研究分担者 室城 秀之
白百合女子大学文学部 教授

研究目的

①源氏物語に代表される平安時代の物語は、漢語の使用を極力避け、和語(やまと言葉)をもっぱら使用する和文というわが国固有の文章で書かれた。和文は9世紀、平安時代中期における仮名の成立を承け、10, 11世紀の平安朝女流文学において花開き、完成した文章である。と同時に、やまと言葉という固有の語彙、仮名という固有の文字で書かれた和文は、日本語の膠着語として息遣いをもっとも端的に現れる文章でもある。本研究は、和文の典型として後世に大きな影響を与えた源氏物語の文章に、語彙の計量分析という観点から迫り、かつそれを

他作品の和文(今回は『うつほ物語』を取り上げる)と比較対照して、和文の生理生態に科学的なメスを入れ、平安時代物語文の特性を客観的に解明しようとするものである。

②『源氏物語』に代表される平安時代物語の個々についての研究は、国文学の領域において今日ほとんど行き着くところまで行った観がある。しかし、その文体に関する研究のみは、従来、文学研究者の直感的判断に大幅に依拠する印象批評的な方法が主流であった。もちろん、優れた直感にもとづく文体批評には聞くべきものも少なからず見出されるが、客観的な根拠を提示しての説得力という点では、必ずしも満足できるものではなかった。本研究は、『源氏物語』、『うつほ物語』の両作品について、克明な品詞情報を付したデータベースを作製し、それをもとに計量分析を施して両作品の文体の特徴を把握しようとするものである。これまで平安時代の文学作品についての統計的研究は皆無ではなかったが、詳細なデータベースを駆使しての研究はいまだなく、斬新な成果が期待される。

③本研究は、従来、文学研究者にもっぱら委ねられていた文体研究に、統計分析という新しい分野からのアプローチを試みるものである。このような客観的な方法とデータにもとづく文体研究の成果は、従来の優れた直感的研究に対してはその裏付けとなり、他方、恣意的な印象批評的研究に対しては反省を促す学問的基準を提示することになる。

研究計画・方法

① 作業前田家本を底本とする『うつほ物語』の品詞情報付きデータベースの新規作成。『うつほ物語』は信頼するに足る優れた古写本がないので、嚙経閣文庫蔵の前田本を写真撮影し、それを翻字した上で、入力作業を行う。(今西, 室城)

② すでに作成済みの『源氏物語』のデータベースの点検, 改良作業。

A03 インド古典天文学書の研究と伝統暦プログラムの改良

研究代表者 矢野 道雄
京都産業大学国際言語科学研究所 教授

研究目的

TurboPascalによるインド暦プログラムPANCANG 2を改良する。さらにこのプログラムをWebページの上で処理できるようにするためperl言語に書き換え, CGI

で実行できるようにする。

現在の版は『スールヤシッターンタ』に基づいているだけであるが、他の天文学書に基づいた暦の可能性も考慮に入れられるように拡張し、さらにインドにおけるイスラム暦や南インドの太陽暦も選択肢の中に加えるようにする。そのためにインド古典天文学書とイスラム天文学書を研究する。

天文学や暦法のプログラムは数多く存在するが、すべて現代天文学に基づいた計算をしており、理論的枠組が異なるので、実際に用いられていたはずの暦と一致しない場合が多い。本プログラムは古典天文学書原典に基づいて古代の暦をそのまま再現しようという試みであり、この点で世界でも例を見ない。

研究計画・方法

現在ハーバード大学に留学中の伏見誠氏と緊密な連絡をとりながら、TurboPascal用のプログラムPANCANG 2. PASをPerl用書き換える。これと平行して、インド古典天文学書の原典を読み、暦計算のアルゴリズムをできるだけ忠実にプログラムに反映させ、学派による天文定数の相違を考慮に入れられるようにTurboPascalのプログラムを改良する。その結果をPerl版でもとりいれる。そのためにはMS-DOSとPC Unixを1台のマシンで用いることのできる軽量かつ高性能なポータブル・コンピュータが必要である。

古典天文学書の研究に当っては、代表的な天文学書の電子テキストを準備しておくことと便利なので、研究補助員に入力を依頼する。またインドへ出張し暦法資料を収集する。

●現在実用化されつつあるUnicodeは一般的な商用利用に限定したコード化を行っているため、将来ISOが新たなコード体系を制定するのを待つ間は、いまだコード化されていないような文字や言語を使用する古典研究のためには独自の多言語処理体系を開発する必要がある。本研究で開発するシステムは、同一言語多書記法 (script) 表記や同一書記法 (script) 多言語表示を可能とすると同時に、PerlとTeXを用いることによって研究者各人による容易なカスタマイズを可能にすることで、現在のような過渡期において十分に実用的かつインド以外の東南アジアにも拡張可能なシステムとなることから、広範囲の古典研究者にとって強力なツールとなるであろう。

研究計画・方法

1.すでに開発済みのカンナダ語TeXシステムを拡張して、既存のナーガリー文字・タミル文字・マラーヤラム文字のTeXシステムを統合してPerlによる一つのPre-processorで4種類の文字が出力できるようなシステムを開発する。

2. PostScriptプリンタを導入して、PostScriptフォントを用いるltransのようなシステムを解析して参照すると同時に、TeX出力を直接PostScriptでも利用できるように対応する。

3. グランタ文字のテキストを入力して、印刷本と対照することによって、グランタ文字の結合文字の分布、3文字以上の結合の場合の下付き処理のあり方をすべて抽出する。

4. ローマ字表記のサンスクリット語テキストのハイフネーション区切り規則に関して、出版本に当たると共に、全国のインド学者から意見を取りまとめる。

A03 古典学のための多言語文書処理システムの開発

研究代表者 高島 淳
東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 助教授

研究目的

●本研究においては、インド古典研究における多言語処理の要望に応えるべく、現在研究者が使用している多様な転写入力方法に対応していると同時に、その一つの入力方法からローマ字転写、ナーガリー文字、グランタ文字、カンナダ文字、タミル文字、マラーヤラム文字を印刷出力とすることの出来るシステムを構築することを目的とする。また、ローマ字転写においては、語の構成要素に出来る限り従うようなハイフネーション区切りの方式も開発する。

A04 「古典の世界像」

A04 中国古典に現れる通常語についての再検討

研究代表者 木下 鉄矢
岡山大学文学部 助教授

研究目的

日本人が中国の古典を読解する時に大きな障害となってきたのは、そこに現れる極くありきたりの、例えば「為」「道」「動」「用」「照」「明」などの漢字が、日本でもやはり極くありきたりに使われるものであるために、ほとんど無自覚にその日本語としての意味をそのまま中国古典に現れるそれらの漢字にも当てて読んでしまうと